

令和5年度 第2回八尾市芸術文化振興審議会

日 時：令和6年3月22日（金） 午後6時～午後8時10分
開催場所：八尾市商工会議所3階 多目的室・セミナールーム
委 員：藤野（会長）、木ノ下（副会長）、緒方、松井、大内、大久保、鈴木、高安、
辻田、中尾、萩原 ※敬称略
事務局：新堂、式、出水、古川、川下、川井（文化・スポーツ振興課）
北芝（文化振興事業団）
傍 聴 者：0名

事務局より配付資料の確認。

1. 開会

出席委員及び事務局の紹介

これより議事の進行を藤野会長に依頼する。

会議の定足数の確認、会議の公開、傍聴について説明。資料7については、情報公開条例第6条1号（個人に関する情報）に該当するため非公開とする。

2. 審議

(1) 案件「八尾市の芸術文化振興の取り組みについて」

事務局より資料1に基づき①八尾市芸術文化推進基本計画について説明。

- 芸術文化を取り巻く状況
- 条例と計画の関係
- 審議会の設置・運営
- リーディングプロジェクト
- 八尾市芸術文化推進基本計画の7つの施策と主な取り組み

令和5年度に実施した取り組みが、基本計画で掲げる7つの施策のいずれに寄与するか説明。複数の施策に寄与する取り組みは、主だった施策に位置付けた。

資料2-1、資料2-2、資料3-1、資料3-2、資料6に基づき、②やおうえるか
むコモンズ推進会議の主な取り組みについて説明。

- 高校合同文化祭の実施報告及びアンケート集計結果
- まちかどライブクリエイション実施報告及びアンケート集計結果
- やおうえるかむコモンズポータルサイトの開設

事業団より資料 9 及び事業団のチラシのセットに基づき③八尾市文化振興事業団の主な取り組みについて説明。

事業団の事業については、八尾市芸術文化基本条例を踏まえて作成した当事業団の 3 つのミッション、ならびに基本計画のどの施策を実現するために実施するのかをきちんと割り当てて実施している。それぞれの事業については、複数の施策や取り組みの要素が入っているが、一覧表については、最も当てはまる欄に記載している。そういった前提の上でご説明する。事業がたくさんあるので、主だったものについて説明する。

施策 2 芸術文化につながる機会の提供というところで、①誰もが芸術文化に気軽に触れる機会の創出について、こちらは具体的な事業というよりは、文化会館全体として、カフェやプリズム・アート&シアター・プロジェクト等による共有スペースの活用で、親しみやすい文化会館づくりを実現している。

施策 3 芸術文化を深く味わう機会の提供については、当館が実施する一番主だった事業となる大、小ホールを中心とした質の高い公演を提供する事業として、①鑑賞機会の提供がある。令和 5 年度において、主催、名義主催事業を合わせて 11 事業実施した。

②活動機会の提供・活動の支援のところでは、プリズム・アート&シアター・プロジェクトとして、プリズムカフェライブを行い、市民アーティストや市内の各団体様にご協力いただき、出演の機会を提供するようなイベントを行った。加えて、地域アーティストや市民の企画実現の場 プリズムホールであなたのアートを輝かせよう！として、普段、趣味として芸術文化活動をされている方々の発表の場の提供等を実施した。また、ワークショップ等も、演劇や俳句など数多く実施した。八尾市吹奏楽フェスティバルについては、市民の吹奏楽プレイヤーの皆さんに大ホールでの発表の機会を提供する場になっている。

③芸術文化へのアクセシビリティの向上については、具体的にこの事業ということではなく、施設改修によるハード面の改善や、バリアフリー研修も自前で色々実施しているこ

とに加え、外部研修にもスタッフが参加していることによるソフト面の対応改善の両面から実施している。また、ここには記載していないが、市の外国語の情報サイト（やおがる）に情報提供し、外国人の方にイベントをお知らせし、やさしい日本語によるチラシや外国語の翻訳チラシの作成などにより、あらゆる方にプリズムホールに来ていただきやすい施策を行っている。

施策5 芸術文化を通じた子どもの育みについて、①学校等と連携した芸術文化教育の推進として、校長会などで依頼し、学校単位、クラス単位で楽しんでいただけるような、学校にお届けする芸術文化の課外授業、もしくは部活動の単位でこちらから講師を派遣する吹奏楽クリニックのほか、近隣の大学との連携事業など様々取り組んでいる。

③未就学児が芸術文化に触れる機会の創出として、0歳から楽しんでいただけるような八尾に伝わるわらべうたを使った「音とからだであそぶ なつのおとうた・わらべうた」を実施した。また、市内で活動されている人形劇団体による人形劇まつりを実施した。

施策6 芸術文化を通じた地域の活性化について、①地域資源を活用した活性化の推進ということで、まちで魅了する舞台シリーズとして、まちの名所で、地域ならではの味覚も楽しんでいただける公演等を実施した。

②地域・社会課題の解消については、誰もがアートを楽しむ機会を創出するアウトリーチ事業として、母子ホームでのコンサートや、不登校児スクールの通所者等の参加するインクルーシブコンサートのほか、ベトナム人の学生が多く在籍する夜間中学校でのベトナム舞踊等を実施した。また、ここに記載はないが、施策6の③に異文化交流の推進があるが、八尾の夜間中学でのイベントに32名の外国人の方に参加いただいたり、子ども河内音頭関連企画において、市内のネイティブスピーカーの英語教員の方に参加していただいたり、そういった形で芸術文化を通じた異文化交流を行った。加えて大阪教育大学の留学生の皆さんに声がけし、河内音頭や高安能といった八尾ならではの歴史、伝統ある芸術文化に触れていただくような機会の提供も行っている。

こういった形で、様々な事業で施策の実現に向けて取り組んでいる。

会長：事業団から説明があった通り、プリズムホールは素晴らしい活動をされている。

さらにこの1年間、やおうえるかむコモンズ推進会議が本格的に稼動し官民一体となって、事務局も八面六臂の活動に取り組み、新しい分野を開拓し、まちの中に染み出ていくような形で、色々な人がインプロビゼーション（即興）で結びつくことができた。このように二つのエンジンを持つ八尾市は本当にすごいと思う。こういった形で実施事業を計画に掲げる7つの施策と結びつけ、その関係性をきっちり整理されているのは素晴らしい。また事業団は理事会や評議員会がある中で、それとは別に審議会の資料を作成することは大変だったと思うが、整合性が取れており見事だと思う。

この場は実施部隊ではなく審議会であることから、事業レベルと政策、施策レベルを関連づけながら評価していく場になる。この審議会には内部の関係者もいらっしゃるため、外部評価と内部評価の半々になると思うが、評価にあたってはできるだけ外部評価の位置付けで、より良くしていくために課題を洗い出し、ある意味、歯に衣着せぬような相互批評も必要であり、それを次年度に向けた提言といった形にまとめていくことができれば良い。

議論の前に、事務局が用意した資料4及び資料5の説明を手短にお願いしたい。

事務局より資料4、資料5について説明。

資料4については、高校合同文化祭とまちかどライブクリエイションの各会場に、7名の委員の方に視察に行ってください、アンケートでいただいたご意見、ご感想等を取りまとめたものである。

資料5は、リーディングプロジェクトの一つである高校合同文化祭について、事務局においてロジックモデルの案を作成したものである。

ロジックモデルは、本来イベントの実施前に作成し評価に活用するものだが、時間の都合上、事務局において作成した。昨年度の審議会に向けて事務局が作成したものに、今年度の実施内容を踏まえて加筆修正した。また本来は計画全体を俯瞰し、その進捗について検討するためのロジックモデルも推進会議で検討していく必要があると思うが、現状では議論できていない。今後、推進会議において議論していきたいと考えている。

会長：ロジックモデルは因果関係をなるべく理路整然と理解できるように整理したものである。実施内容に基づき出た結果を検証できるようになっている。インプットといえば経済分野での話に見えるが、文化芸術のインプットは活動内容になる。アウトプットは入場者数や収益といった概ね数量化できるレベルのものである。その後のアウトカムの評価は、短期でいうと「意識」、中期であれば「行動」、長期はそれが当たり前になっている「状態」を指す。短期であれば1年、中期は3年、長期は10年の歳月をかけて見ていかなければならないため、簡単に結果が出るものではなく、想定される状況が途中で社会的な要因及び経済的な要因等で変わることがある。そのため、当初想定されたアウトカムに至らないことも多いことから、途中でフレキシブルに修正をかけても構わない。行政が策定した計画は確固たるもので、社会状況や経済状況が変わっているにも関わらず、5年あるいは10年計画で掲げた目標をめざして取り組んでいくことがあるが、文化芸術の場合はもっと柔軟に対応しても良いと思う。

高校合同文化祭の事業レベルにおいて評価するためのロジックモデルについて、これをベースとしながら次に施策レベルの評価をする必要がある。非常に難しいが、7つの基本施策に照らして、どこまで到達しているのか、皆さんで共有できるロジックモデルを作成していく必要がある。随分時間がかかるため、事務局で簡易的に作成すれば良いというものではなく、皆さんで議論を重ね知恵を合わせながら作っていく形になるかと思う。

それでは事業視察に赴かれた委員もいらっしゃることから、皆さんから忌憚のないご意見を頂戴したい。

A委員：本日の会議の進行が素晴らしい。膨大な資料だが、ポイントを押さえ計画のおさらいと振り返りについて分かりやすく短時間で説明がなされ、数多くの取り組みを実施されたことが改めて思い起こされた。仕事の合間にいくつかの会場を視察したが、すべてを網羅した説明及び資料で、その上委員が話す時間を確保していただい

ておりありがたい。推進会議のメンバーでもある審議会委員の方は実働部隊として取り組まれていることから、推進会議のメンバーではない審議会委員の立場として先に発言させていただこうと思う。

非常にボリュームのある実施内容で、令和4年度にプリズムホールで高校合同文化祭のプレ開催を行ったものの、それを経ただけで本年度が初回のような形であるにも関わらず、やおうえるかむコモンズの機動力を総動員し、会議から体系的に部会を作って開催できたことに驚いている。安易に成功か失敗かは言えないが、初年度としては実施したことに関してはすべて成功だと思う。細かい改善はもちろん色々出てくると思うが。細かい論点については後ほど、推進会議のメンバーの皆さんからお話があるかと思うが、プリズムホールで数々のイベントを手がけている立場から見ても成功に思う。課題については今年の勢いを継続できるかどうか。

我々は35年間プリズムホールを運営する中で、市民の方と一緒に取り組む企画をたくさん実施しており、スクラップアンドビルドしている。それらは主にプリズムホール内で実施することが多かったが、大きなものとして「吹奏楽フェスティバル」「演劇フェスティバル」「プリズムミュージックウェイブ」の3つが挙げられる。この3つの中で、吹奏楽フェスだけは事業団のスタッフが実行委員をコーディネートして実務を担う形だったが、「演劇フェスティバル」及び「プリズムミュージックウェイブ」は市民の方が主体的に運営したものであった。現在は役目を終えて事業も終了したが、そういったことを積み重ねていても最初のスタートは好調なもの、数年経てば息切れしてくる。これらの事業は指定管理制度が導入される前に行ったが、市の予算や事業団の財源を充て、予算が確保された状態で好きに絵をかいてよいという形だったので、取り組みやすかった。

しかし、やおうえるかむコモンズの事業に関しては、市の予算が確保されておらず、協賛をはじめ苦肉の策で資金調達して実施したことがより尊く感じる。今後はこの勢いだけに頼るのではなく、計画の最終年度である令和10年度までは継続することから、先を見据えて取り組んでいく必要があると思った。素晴らしい取り組みであるがゆえに、その実現の方向性について大体の目途をつける必要があるのでは

ないか。おそらく今後3年程度はこの機動力で発展していくと思うが、その先を視野に入れながら、どのように構築していくのか考えるべきではないか。

会長：大変豊富な長年のご経験からピアレビューをしていただいた。やおうえるかむコモンズ推進会議には加わらない立場でこの審議会にいる第一人者として、お褒めの言葉もいただき、今後の懸念についてもお話しいただいた。

B委員：A委員からほめていただいたことがうれしく、ありがとうございます。

私は審議会委員及び推進会議メンバーの立場を両方持つため、まず審議会委員としての立場から申し上げたい。初年度の滑り出しとしては上々だと思うが、やはり一番苦労したことは予算とマンパワーである。マンパワーの中には交渉、企画、実行の役目があり、非常に苦しかった1年だったと思う。今は事務局の非常に力強い行動があって成り立っているが、そこは解決していかなければならない課題だと思う。評価の面では、なんとか頑張った結果だと思うが、課題は山積している。

続いて推進会議の副会長として引っ張っていく立場から述べると、やはりマンパワーの部分である。いっぱい事業を打つということは、推進会議メンバーはそれぞれの職業がある中で、やおうえるかむコモンズ推進会議の事業に中々時間が割けない状況だったため、もっとメンバーが必要だと思った。事務局の仕事と実行委員の仕事を分けてやっていかないといけないと考え、もう少し基盤整備を強固にした上で推進会議を運営していかなければならないと思う。

推進会議の大きな目標は令和10年度の計画最終年度であるが、先日の推進会議で仮称の名称を「八尾まちかど国際芸術祭（仮）」に変更した。これは裾野を広げて市民の方をもっと巻き込み、まちかどライブクリエイションの延長線上にある国際芸術祭をめざしたいという思いが生まれたからだ。審議会の皆さんと議論しながら、令和10年度に向かって推進会議メンバーと取り組んでいるところである。確かに令和10年度まではやっていけるかもしれないが、そのあとをどう継続していくのか。条例に基づいて、市民の裾野を広げていく、市民活動を応援していく、より豊かな

まちにしていくということが目標なので、芸術文化をすることだけではなく、裾野を広げていくにはまだまだ課題は大きいだろうと思う。

特に今回感じたことはやおうえるかむコモンズの認知度が低いことである。イベントのチラシを多方面に配り、市政だよりに特集記事を掲載してもらい、SNSも発信したが、やおうえるかむコモンズはまだまだ知られていない。八尾市芸術文化基本条例があることすら知らない方も多くいらっしゃるため、今後どのように広めていくのかが非常に大きな課題だと思う。

続いて事業実施にあたってはマンパワー及び予算が確保されていないことから、その点をきっちりクリアしていかなければ継続は難しいと感じている。皆さんから知恵をいただきながら、継続できる組織づくりと運営を心がけていければと思う。

C委員：去年は一気に湧いたような形で数多くのイベントを開催され、驚いている。懸念していることは、やおうえるかむコモンズのFacebookでも見受けられたが身内受けしている点である。身内だけで取り組んでいる状態が気になっており、将来的に国際芸術祭という名の下に開催していきたいのであれば外部の力が必要だと思う。

予算に関して言えば、芸術祭はどの地域でも予算が乏しい状況から始まっている。それをどのようにやりくりしているかといえば、市民の意識を変えていくことである。文化芸術というところまでいかななくても、まちなかに参加できる場所をどんどん創出している地域が非常に多い。私自身3年間学んだ中で気がついたことだが、まちの人が参加するというのは、文化のある場所に飛び込むのではなく、文化のある場所で、言わばおせっかいのような形で、プリズムホールをはじめ色々な場所での取り組みにお誘いする声かけがなされていることが多いことだった。SNSだけではなく、まちの口コミで広げていくことが効果的であると気づいた。

D委員：私はまちかどライブクリエイションの龍華町西公園会場へ2歳と0歳の子どもを連れて参加した。天候にも恵まれ、すごく良い雰囲気の中、音楽とともに始まった。イベント会場には子どもも食べられるキッチンカーがあり、近隣に住む方が通りが

かりに寄っている姿もたくさん見かけた。イベントの終盤にはパーカッショニストとコラボした神楽の舞いのパフォーマンスが行われたが、2歳のわが子も体が勝手に動き出し輪の中に入っていった。こういった体験は、私自身声楽家として活動する中でいつも思うことだが、その場で体験した者にしか分からないような感覚がある。芸術には色々なジャンルがあり、どんなものでも芸術になりうると思うが、とにかく体験し体感し感動すると、もう一度やりたくなる、その体験に触れたい、その感動に触れたいと思う。そのため、まちかどライブクリエイションのような一緒になって楽しめる体験型の芸術活動は本当に素晴らしい。

一方、演奏者という視点で見たとき、吹奏楽の方々が前半と後半の2回演奏されていたが、演奏者の方々が合間の時間や楽器のことを気にされていた様子だった。私自身仕事で赴く際、控え室や空き時間、自分自身のコンディションなど大変気になる。今回のまちかどライブクリエイションは初回の開催であるが、そういったことも気にしていただけるようになってくるとレベルの高いイベントになると思う。

他の自治体からコンクールやコンサートで呼んでいただいた際も、まちの方々にも歓迎していただいたり、裏方のサポートなど大切にしていただけるとコンディションも変わってくる。そういったサポートは気持ちの問題ではなく、知っているか知らないかの違いであることから、心得ておいてほしいと思った。

会長：ホスピタリティにより演奏の質も変わってくる。運営側にどこまで余裕があるかどうかとも関係するが、ゲストとして蔑ろにされていると感じれば、次回は辞退しようと思ってしまう。これは大変重要な演奏家からの指摘だったと思う。

E委員：業務等の事情で中々関われなかったが、SNSで皆さんの楽しそうな様子を拝見し、大変良いイベントであったことが見受けられた。ただ、身内感があるという部分で、特に高校合同文化祭のアンケートを拝見していると「イベントを知ったきっかけ」について47%が『家族・友人・知人から聞いて』となっていることが気になっている。一方で、まちかどライブクリエイションはSNSやチラシの割合が多い

ため、伸びしろはあると思う。

高校生だからこの辺でいいだろうという広報はないとされていて、合同文化祭と言いつつどこまで文化祭感を残すのか、皆の中で決めておいた方が良いのではないか。広報の面で言うと、チラシを作成する際、高校生や関わっている人たちの満足度を上げることが大事なのか、見てもらうために来場者目線で考えたほうが良いのか、皆で考えていくべきところだと思う。

高校生が関わっているからこそ、大人の人たちとやったけど、なんかわからないまま終わってしまっただけは、思い出の中で悲しいだろうと思う。大人のイベントでは、今回はよくわからない感じで終わったけど、来年はもっとこうしようというのは多々あると思うが、高校3年間の中で、2回、3回参加したけど、よくわからないまま終わらせてしまうのはよくないと思う。広報をはじめ大人がサポートできる場所はしっかりサポートし、ちゃんとしたイベントとしてまちの皆さんに知ってもらえることができると、運営側の気持ちも高まるため、どこまで文化祭感を出すのか考えながら取り組んだ方が良く思う。

SNSを見ていてとても楽しそうだなと感じていたため、来年度はしっかり関わろうと思う。

事務局：八尾市は予算や人員が慢性的に不足している状況であるが、そういった中で行政としては芸術文化だけではなく、福祉や教育、子育てといった様々な分野にリソースを配分していかないといけない。そんな中、条例の中で、芸術文化を通じて様々な分野を跨いでネットワークを作っていくことを掲げており、まちを活気づけていく、市民の皆様が八尾に住んでよかったなと思っていただけることをめざしている。

私もやりながら感じているのは、推進会議の若いメンバーが非常に情熱を持って関わっていただいているので、我々もそれにあてられてもっと芸術文化に関わっていきなという思いを職員も持っているところである。ただ、そういった個人的な部分だけではなく、組織的な部分や制度的な部分で、行政としてどういった形で作り上げていくのかという部分が必要だと思う。市民やアーティストの方、拠点な

どそれぞれのメリットをお互いに見いだしながら取り組んでいかなければモチベーションを保つことができず、どこかでついでいていくと思う。

例えば、高校合同文化祭では学校の協力があまり得られないと感じる部分があるものの、学校の状況や事情があるため、学校や生徒がどのように楽しんでもらえるかといったメリットを見いだし、積極的に関わろうとしてもらえるのかを考えながら、行政と様々関わっていただく皆様が楽しい、もっとやりたいと思っていただけるような仕組みを作りたいという話を内部でしているところである。

F 委員：高校合同文化祭で「ゲルニカ」の模写を鑑賞したが、回廊で見るものではなく、一歩二歩下がって遠くから見るものである。展示室での展示が相応しいと思い、事務局に聞いてみたが、予算がないため回廊での展示となったと聞いた。そもそも事業を始めるのであれば、予算を確保しておくべきである。予算がなければ、せっかくの催しが台無しになってしまう。そこは工夫してもらったほうが良かった。

今、一番心配していることは高校の授業科目に美術がないことである。絵画クラブと学校が協力して教える環境を作れば良いと思うが、学校側としては外部団体や異なる高校の生徒同士がまとまって、美術の授業を再開するような要望書が出ることを懸念しているのではないか。しかし、高校生がひとつの場所に集まって、情報交換したり、学んだりすることは非常に素晴らしいと思う。

龍華町西公園でパーカッションとコラボした神楽の舞を拝見したが、文化芸術芸能はやはりこういった底辺から生まれてくるものだと思われ、原点を見た。リーディングプロジェクトに（仮称）やお芸術文化フェスティバルの開催を掲げており、文化会館をメイン会場に、多くの市民が参加する発表会を開催することが計画に記載されているため、会場を確保していただけることを期待している。

私は八尾市文化連盟から派遣されて審議会委員を務めているが、文化連盟は文化芸術芸能祭を長年開催してきた。それが新型コロナウイルス感染症によりここ数年開催できておらず、その間八尾市の予算が確保されていなかった。次年度は予算が計上されたと聞いたが、開催できるような予算額ではなかった。文化芸術芸能祭は

教育委員会が管轄しているが、魅力創造部と文化に関する考え方が2つあるかのよう
に思う。

文化について、せっかく条例ができたのだから、部局によって考え方が違うとい
うのであれば、八尾市としては条例の方向性が誤っているのではないかと思う。そ
の辺は考えていただきたい。

また、在日の市民の方の野遊祭についても、こちらからアプローチしていけば伸
びていくと思う。それからバリアフリーとおっしゃったが、障がいのある方はどう
するのか。障がい者もギター教室や三味線教室に行き、文化会館のレセプションホ
ールで年に1回演奏会を開催されるなど、地道に努力されている方もいるので、ど
うやって引っ張りこんでいくか。将来的に課題はたくさんあると思う。今後の発展
を楽しみにしている。

会 長：大変重要なお意見であり、縦割りではない形で今後展開していくことができる組
織を作りたいと思う。

G 委員：教育の現場で言うと、働き方改革が推し進められ、以前に比べると教職員も長時
間のクラブ活動に対するしんどさがあるので、高校の先生の積極的な協力が得られ
ないことは理解できる。あと1、2年は今と同じ形で高校合同文化祭を実施でき
ると思うが、先々はかなり厳しいと感じる。公募の形で、高校生や中学生が自ら出
たって、保護者が引率する形ならできるかもしれない。最近、八尾の地域ではダン
スが盛んになっている。小学生からまちなかで踊る姿を見かけるため、発表の場を
欲していると思う。

今回の開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響で、芸術文化の分野
では発表の場が失われていた中、高校生が発表の機会を得られ、非常に喜んでおり
良かったと思う。今後は、あまり八尾市にこだわらず、他市からも出演者を募り、
八尾市でこんな発表の場があるということを広報すれば、八尾市がこんなことがで
きるところだということを知ってもらえるのも一つの魅力だと思う。

課題は将来を見据えることと、集客である。小学生や中学生を呼ぼうと思えば、保護者が引率する形が一番良いと思うため、公募するのが一つの方法だ。応募者多数により選考が必要な場合もあるかもしれないが、チャレンジする価値があるのではないか。今年と同じことをやってもダメな気がする。ブラッシュアップして少しずつ変えていかないことには、世の中はなかなか変わらない。変えていこうとして失敗したとしても、原点に立ち返ってどうしたらいいか考えれば良い。

会長：部活の地域移行の動きがある中、高校の部活といつまで合同で開催することができるか。地域の受け皿が十分ではないため、それも含めて検討する必要がある。働き方改革も遵守しながら、私たちが芸術文化の分野で高校生の伸びしろを引き出していくことも文化振興の重要な役割であることから、矛盾するところはあるが、うまく落としどころを見つけていけたらいいと思う。

H委員：審議会及び推進会議のメンバーとして発言する。本日の資料は良くまとまっておりびっくりした。この1年間、事務局の職員が休日昼夜問わず、いろんなところに足を運んで、アーティストをはじめ色々な方と交渉されたことは本当に素晴らしいことだ。一方、予算が少なすぎるように思う。イベントを立ち上げた際は0円でスタートしたと思うが、そこから万博経費から100万円の予算を引っ張ることができたものの、やはり今回の規模で開催すると計画した時点で予算を確保しておくべきだ。それからアーティストや裏方スタッフの方々の人件費について、今はやる気や思いでカバーしている部分がたくさんあるが、今後どのように解決していくのか、長期目標として考えていきたい。

官民一体となつてごちゃ混ぜの実行委員会が生まれたことは、他の地域でもあまり見かけない現象で非常に素晴らしいことから、あとは人件費をクリアすれば随分と動いてくることも多いと思う。

推進会議に入った経緯について、今年度からやおうるかむコモンズが本格的に始動するとお聞きしたため、ぜひ参加したいと私から申し上げた。実際に八尾の方

とお会いする機会に巡り会えたことは本当に良い経験だった。推進会議のメンバーに入ってみて、立ち上げたばかりの会議体で、開催まで間に合うのか気がかりだったが、官民一体で知恵を出し合って、部会を立ち上げ、奔走し無事終えることができた。私も引き続き協力できればと思う。

まちかどライブクリエーションは、まちかどで色々な方に芸術文化を体験して欲しいということをテーマにしていたため、先ほどD委員から体験や体感することができて良かったというご感想を頂戴し、本当に嬉しく思う。私は龍華町西公園で神楽のパフォーマンスをさせていただいた。そうするとお子さんも年配の方も非常に喜んで一緒に踊ってくださり、私自身も八尾の方々と一緒に体感する体験を得ることができた。まちかどライブクリエーションは劇場で芸術鑑賞をする体験とはまた違う良さがあり、市民が生活する場で芸術を体験、体感する場をたくさん企画でき、まちが変わっていく瞬間をつくれるのではないかと感じた。

会長：新規事業の予算取りは行政にとって非常に難しい。概算要求しても認められないことが多く、既存の事業であってもシーリングがかかって削られる。そのような中で、今回の予算は少ないかもしれないがよく引き出してくれたと思う。どの自治体もそのような状況であるが、血と汗の結晶で引き出した財源だと思う。実績を積んでいくと、外部予算を獲得しやすいが、最初はどこもこういう形から始まると思う。3年ほど実績を積み重ねると、国や府など色々なところの補助金を獲得できるのではないか。

I委員：まず、成功というのが、営業でいう数値目標になっていないのはつらい。何人集めたらいいのか、成功したというための指標がないため、やってよかったのか分からなくてモヤモヤが残る。

またD委員やH委員のお話を聞いて思ったのが、いいものをすれば満足した観客はまた来てもらえるが、逆を言うと、少し面白くなかったり、何か粗相があれば、演者にしろ、観客にしろ、次は来てもらえなくなるというマイナス面もあるという

ことを感じた。今回、そのフォローができていないことに気がついた。

もう1点、C委員とE委員がおっしゃった身内受けであるが、私たちは人を集めるためにSNSで強力に発信するが、SNSは身内が来る。つながっているのは身内なので、間違いなく身内になる。皆さんの意見を聞いていて、相反するものがたくさん出てくると感じた。身内受けしないためには、口コミや多方面へのチラシ配架、色々な媒体による広報が効果的だが、短期間で集客しようとするればSNSに頼ってしまう。答えは出ていない。今回大変勉強になったが、成功と言えるイベントを開催するには、自分たちの中で解決しないといけない課題が山積していると思う。

さらに会長もおっしゃっていたように、学校との関わり合いについて、働き方改革が言われている中で、私自身他市の学校へイベントの打診をした際、門前払いで一切協力できないとの回答であったことから、八尾市の学校はまだ話を聞いてくださり、協力してくれる学生さんも多い印象を持っている。

それからG委員がおっしゃっていたダンスについて、ダンスクラブや大学をはじめ至る所で盛り上がり、今の時代の風潮に合っており、人気があり、ダンスしたいという底辺の人数が多い。一方で美術、華道、茶道で集客するためには、見せ方や打ち出し方をシャープにしなければ、新しい学生は見向きもしてくれない。時代に合った育て方があるのではないか。ダンスが隆盛を極めている理由は、きらびやかで時代に合っているからであり、スポーツ分野ではボルダリングやアクロバット自転車に若者が大勢集まる。そういった分野と融合させてアートをどうすれば良いか、いろんな取りたいところがいっぱい出てきている。さあ、どうしようと頭の中がごちゃごちゃになっている。

副会長：まず初めに、やおうえるかむコモンズが立ち上がって具体的な事業を実施されるうえでのご苦労、大変なご尽力に感銘を受けた。また一方で、評価することの重要性を鑑みて、今回の資料を準備されていることは大変重要なことだと思う。

ロジックモデルについて、本日は審議会であることから、取り組みが施策のどこに紐づき、どういった評価に繋がり、次の課題として何をクリアすべきかという目

標を考えたときに、資料5のロジックモデルに、最終的な社会的インパクトとして「芸術文化活動の有機的なネットワーク（やおうえるかむコモンズ）の形成」と掲げられているが、はたしてそうなのか疑問だ。活動体を作ることが目的ではなく、高校生であればその次に繋がる自分たちの評価、あるいはステージを作るのか、やおうえるかむコモンズに入りたい方々を増やすのか、最終的には八尾にとって文化活動による都市格を上げていったり、暮らしやすさを担保したり、アートがまちづくりに関与するといった元々のコンセプトがあったと思うが、目的が主題になっているところに若干のぶれを感じる。それは皆さんが感じている身内感であったり、評価にどのように繋げていくかというところのちょっとした掛け違えというか、目標値を少し見誤っているところが気になった。ロジックモデルを作ることは良いが、そもそものゴールの設定を今一度見極めた方が良い。

すでにやおうえるかむコモンズは称号としてできているわけで、それが最終的なインパクトになってはいけない。それはあくまで手段であり、目的ではないところが、全体的な議論の中での大元の立て直し策というか、課題だと考える。それを解決することで、後ほど議論があるが、新たな組織が立ち上がれば運営するためのルールができ、さらに目標達成するための資金や組織的な仕組み、継続させていくための役割やマネジメントができてくると思う。そういう意味で、今は八尾市が主導しているが、そのエリアの中でもこれだけたくさんのメンバーシップができた結果、役割や職業として成り立っていくのか。皆さんの持ち出しでやりがい搾取になるのではなく、継続は力なりになるような仕組みづくりがどこまでできるのか。

ただ一方で、行政が主導的になっている中で、どこまで皆さんに渡すことができるのか、しばらくは市の予算を確保すべき事業だと思う。これだけ市民の方々が関わってくださっていることから、これから3年から5年は公金を確保していくべき事業ではないか。税金を投下していくべき事業だということを市の中でもう少し強化してもらって、頑張ってもらっていただくことが必要だと思う。そうでなければ、やおうえるかむコモンズを作って、NPO化して終わってしまう。文化にとって継続して育てていくことが重要で、5年、10年という歳月をかけて文化ができあがるため、

生まれたものをどうしていくのか、中長期的なビジョンの設定をもう少し今一度考えて、施策に繋げていった方が良い。

会長：ロジックモデルの設計のずれは今ご指摘していただいた通りで、高校合同文化祭はリーディングプロジェクトであることから、それを開催することによって、やおうえるかむコモンズの形成に繋げていこうという助走段階のひとつの目標だと思う。そのため、長期の状態は10年後と考えて良いが、資料5に記載されていることは全部正しいと思う。長期の状態に至るためにやおうえるかむコモンズを先に形成していくことが前提にあるため、この部分が入れ替わるのではないかという指摘である。

社会的インパクトが目標なのかどうか、私自身いつも疑問に思う。目標ではないような、結果としてもしかしたら間接的に生まれてきたものではないかなと思う。サッカーやマラソンのゴールとは少し違う。中長期的なアウトカムの状態であれば、想定されるゴールとして正しいと思う。社会的インパクトを求めて芸術文化活動をするものではないと基本的に思う。今のロジックモデルは試作品の段階で、今後皆さんで議論して作れば楽しいと思う。

(2) その他報告事項

事務局より資料7に基づき来年度以降の基盤づくりについて説明。

① 来年度以降の基盤づくり（2028年度に向けて）

● 推進会議メンバーの拡大

計画の中で施策1に紐づく取り組みとして、来年度以降の活動に向け、やおうえるかむコモンズ推進会議メンバーの拡大を行う。

● 法人化の検討

やおうえるかむコモンズ推進会議は条例に位置づいている組織であるが、今後、取り組みをより発展させていく上で、文化庁やその他様々な助成金を取っていく必要があると考えている。その際に、推進会議では受け皿になりにくいいため、NPO法人を立ち上げる方

向で、有志のメンバーで準備を進めている。

B委員：NPO法人化を今検討している段階ではあるが、やおうえるかむコモンズ推進会議との棲み分けや財務の議論ができていない。（仮称）八尾まちかど国際芸術祭を大々的に開催するにあたって、多額の予算が必要になるが、市の予算では到底足りないことが想定できることから、外部予算を確保していきたいと思っている。外部予算の募集要項を調べると、NPO法人であることが望ましいこと、活動年数が3年以上であることが条件に掲げられていることが多く、令和10年度に開催しようと思えば、今立ち上げないと申請すらできないケースが多い。そういった事情もあり、検討しているところである。まだ決定ではないが審議会の皆さんからご意見を頂戴し、承諾していただければ、令和6年度中に立ち上げたい。もしダメということなら一から議論していきたい。今の推進会議では、皆さまからご意見のあった予算やホスピタリティの課題への対応が難しいことから、NPO法人を立ち上げ、メンバーを増やすことで解決できるものもあるのではないかと。

他方で、推進会議のメンバーにはプレーヤーや、場所を提供してくださる方々はいらっしゃるが、数が足りない。現在の状況が十分だと思わないため、NPO法人を設立できればコーディネーター役の方を中心に組んでいきたいと思う。そのコーディネーターが（仮称）八尾まちかど国際芸術祭に向けた、まちかどライブクリエイションを市内各地で打ち出していけるような状態になっていけば良いと思う。

ここで朗報だが、私はいつもペンホルダーにやおうえるかむコモンズバッチをつけているが、先日銀行へ行った際、隣に座っていた方が「そのマーク見たことがあります。昨年龍華町西公園で開催されたイベントに娘と通りがかりで参加しましたがとても良かった。その際、そのマークを見かけました。ぜひ来年も開催してください。」と言われた。見知らぬ方がやおうえるかむコモンズのマークを見て声をかけてくれた。やはり普段から、みんなでこのバッチをつけたり、個々でイベントを開催する際には幟を立てたり、ロコミで広げていくことは大切だと感じた。そういった仲間を増やしていくべきであり、八尾市やプリズムホールをはじめ、審議会の

メンバーの皆さんにもバッチをつけていただきたい。またポータルサイトに登録していただき、やおうえるかむコモンズをまちに広めていきたい。その先に、もっとやりたいという市民を巻き込んでいけるのではないか。

ぜひ、NPO法人化に賛同いただきたい。

会長：NPO法人の設立をめざして始動しているというご報告であった。審議会と推進会議の2重構造を作った八尾市は日本でも珍しいことだと思う。推進体制であるやおうえるかむコモンズ推進会議の動きの中から、NPO法人を設立しようという話が出てきた。それに対して、この審議会は可否を判断する立場ではない。NPO法人の設立も含めて、八尾は素晴らしい動きをしているかどうかを評価することはできるが、ここで設立の了解を得るのは制度的にはその必要はない。

C委員：クラウドファンディングは考えていないのか。

B委員：今は考えていない。今後そういった手法を用いて資金を集めることが必要だとは思っている。まずはしっかり基盤を作った上で、その先にはそういった手法を取ることもあると思う。

C委員：NPO法人を設立したからといって、助成金が獲得できるかと言うと厳しい気がする。私が芸術祭の関係者にインタビューした際、助成金を獲得できたのは数十件中1件あるいは2件だったという事例を聞いた。NPO法人化したからといって、支援や助成金が受けやすくなるということはないが、それでもあえて、法人化することにより八尾市内外の方々が、八尾市は文化芸術を生み出す場所だということを確認してもらえるのであれば積極的にやっていけば良いと思う。

B委員：我々が勝手にやっているという誤解が生じることを避けたく、皆さんの賛同を得たうえでやる形にしたかった。

会長：勝手にやっているというより、私はNPO法人の設立について、必然性があると思う。本当にこの1年あまり、官民一体で非常に大きな力を引き出してこられた。今後新しい体制になっても、また新たに生まれてくるものはあるはずである。ただ、私の経験から言っても、行政にいつまでも頼ってられないというのはその通りだと思う。NPOを設立し、市民主体でやっていく方が現在の日本の状況を考えると良いのではないか。

B委員：事務局は引き続き八尾市が担い、推進会議は企画立案というイメージがある。運営及び実行をNPO法人が担うというぼんやりとした棲み分けはある。その中で条例に基づいて、整合性を持ちながらチャレンジできればと思う。プリズムホールにもご指導いただきながら、もう少し自立した組織になっていけば新たな道が開けてくると思う。

A委員：プリズムホールのスタッフ一同、手を携えていければと思うし、それに対して労は惜しまない。ただ、現時点でいうと、まず予算について、文化庁の文化芸術創造拠点形成事業という助成金がある。地方公共団体が申請できるが、ただ申請主体となっているだけでは要件に当てはまらず、車の両輪のように専門人材と有機的、多面的な連携を組んで拠点を作っていくことが要件に挙げられている。この有機的、多面的に拠点をつくるとは、まさにやおうえるかむコモンズの繋がりに合致していると思う。八尾市が専門人材であるプリズムホールの職員をはじめ、やおうえるかむコモンズのメンバーと携わり、他分野、地域団体、市民の方々と多様な連携をしていること、また有機的な連携によって色々な場所に活動が繰り広げられ拠点が生まれたことから、要件を満たしていると思う。一つ問題としては、助成を受けるにしても経費の半額は自己資金で賄わなければならないことがある。NPO法人でなくても助成金が申請できることを紹介したい。

あと1点、NPO法人の設立についてはここで語ることはないと思う。NPO

法人の設立を検討することは非常に積極的で良いと思うが、この場でお聞きになってもそれがダメだという理由はないと思う。

最後に、B委員からやおうえるかむコモンズのバッチのお話があったが、「知らなかったということがあってはいけないので、みんなでバッチをつけよう」という話だった。資料8のコーディネーター養成プログラムを拝見すると、知らなかったとか、自分事ではないということを打開するために、6月15日の講師である元小美玉市四季文化会館館長補佐の中本さんから、ネットワークの中で合意形成をきっちり図ってプロジェクトを進めていくお話があるかと思う。行政との連携というよりは、いかに対話をして知らなかったということをなくして、本気になって関わるのか、本気になって関わるにはどれだけ手間暇がかかるか、そこからやらないといけませんよということをしっかり話されるのではないか。いかに対話をして、合意形成を図ってプロジェクトを進めていくか、対話と合意形成のベースを作る話をするのではないかと思う。そのベースのところを先にやっておかないと、形だけNPOを作っても難しいのではないかと思う。

会長：非常に示唆に富んだ意見であった。現在申請しているおおさか創造千島財団の助成金の結果は4月に出るが、非採択であってもアートコーディネーター養成講座を開講するため、準備を進めておられる。

②アートコーディネーター養成講座について

資料8に基づき説明。

計画の中で施策1に紐づく取り組みとして、令和6年度にアートコーディネーター養成講座を実施すべく準備を進めている。やおうえるかむコモンズの有志のメンバーで企画の検討や講師との調整等を行っており、おおさか創造千島財団の助成金を申請した。助成金の結果は4月上旬に出るが、助成金が出なかったとしても、できる範囲内で講座を実施するよう進めていく。

3. その他

事務局：今回のやおうえるかむコモンズの取り組みについて、会長に多方面でご紹介いただき、全国から注目され、1月25日に文化庁、1月18日に広島県が視察に来られたことをご報告する。

最後に、本日の会議についてホームページへの掲載を予定しているため、後日、各委員へ会議録の内容の確認を依頼する。

4. 閉会

(以上)